

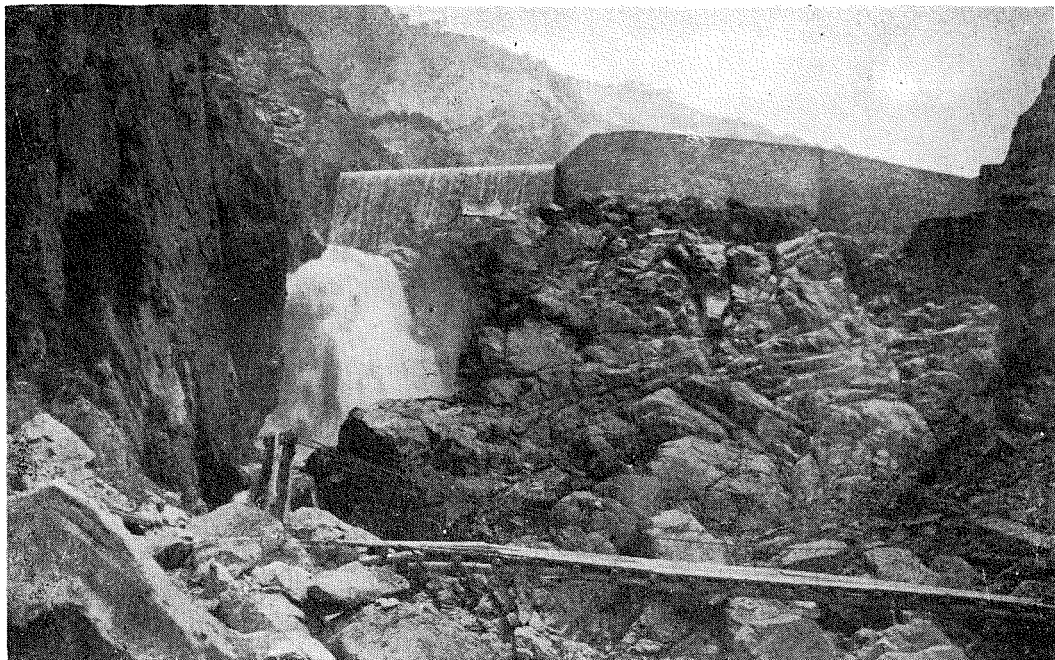
Japanese Embankment Protection, on Jonganji River, Toyama.
Department of Interior Improvement.

常願寺川上澗町附近 (富山縣)

Baskets of Split Bamboo Filled with Stone are Placed Side by Side on the Banks
Affording Necessary Protection at Times of Flood.

蛇籠と聖牛は共に河川護岸用として大切なるものである。然して之れが大小及び蛇籠のみを使用するか。聖牛のみを使用するかは、その河川流水の緩急によつて異なる。蛇籠には竹製のものゝ鐵筋製のものゝあり、流れの緩なる河川にありては粗朶等も使用する。蛇籠は現場に於てその材料を得られ、適所に任意に設置し得るのみならず、低廉なる竹代及び勞力にて製作設置し得る。圖にある蛇籠の大きさは徑 2 尺乃至 3 尺、長さは 3 間乃至 4 間位のものである。普通は徑 1.5 尺乃至 2 尺、長さ 2 間位のものを使用する。耐久力は流水の緩急により同一ならざるも三年乃至四年位のものなり。聖牛は一時的のものなるが、流水の抵抗を減じ、流れを自由ならしめ、砂石を蓄溜し得る大きさは矢張り流水の緩急によりて異なるも、圖にある聖牛は高さ 13 尺内外のものである。輒近頻りに治水法説が起り、之れが對策たる治水技術の進歩を來せるは國利上、治水上誠に慶賀に堪へない。(蒲 孚 氏)

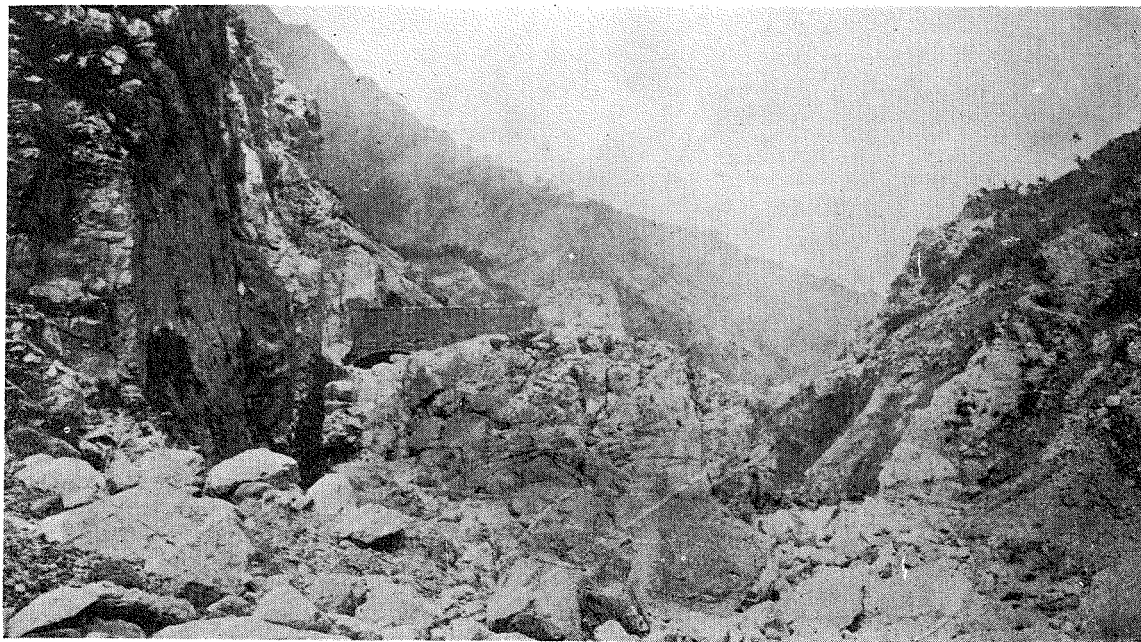
Views of work Undertaken by Department of Interior,
to Prevent Erosion by Freshets in Many Sections of Japan.



(1) 被害前の第一號堰堤

(1) Erosion Protection Dam before
Destruction by Flood.

湯川筋宇白岩に於て大正四年よりニヶ年繼續
事業とし五萬三千四百餘圓を投じ築造したる
基礎堰堤の罹災前の狀況（富山縣）



(2) Showing Dam Washed Out by Flood of July 6th, 1919.
Rainfall, 63mm.

(2) 大正八年災害後の第一號堰堤

大正八年七月六日の大豪雨は最大時雨量六十
三耗餘に達し終に左岸袖部分は破壊流失せり



(3) 被害前の湯川本流筋

(3) Typical View of Valley Erosion,
Prior to Government Construction.

湯川本流筋は堰堤工事を施行し着々効果を擧げつゝありしも大正八年及十一年に於ける大災害のため是等諸工事は全部流失したり。



(4) 湯川筋宇水谷附近に於ける荒廢の状況

(4) Present Method of Erosion Protection.